

卒業生の皆さんへ

友とのつながりを大事に、
面白く楽しい世の中を創ってください。

4年前の今頃、何を考えていましたか。どこで何をしていましたか。入学が決まり、離れ離れになる高校時代の友人たちとの別れを惜しみつつも、引っ越しの荷物をまとめ、心躍らせながら、熊本生活をスタートしましたよね。その一方で、初めての大学生活で不安もいろいろありましたよね。入学式そして入部式、ガイダンスを終え、授業が始まった矢先の平成28年4月14日の余震と16日の本震を含む、熊本地震の発生。インフラが寸断され、電気やガス、水も自由に使えない生活になりましたね。5月の連休明けに授業が始まっても余震は続き、それなりに落ち着いたのはやっと入学して半年経ったぐらいだったと思います。

その後は徐々に普通の大学生活が送れるようになり、部活やサークル、アルバイトで友人も増え、3年生になると研究も本格化し、「自ら学ぶ」楽しさ・面白さを少し意識できるようになったと思います。3年生の冬に本格化した就職活動では、「採ってくれるところ、本当にあるのかな?」と思う辛い日々でしたね。周りの人たちがひとり、またひとりと内定が出るなかで、自分には内定が出ない。あんなに自分の至らなさを知らされつつ、自分自身に向き合った時間はなかなかないですよ。そんな就職活動も何とか乗り越えた最後の大仕事が、卒業論文書き。ここでもまた、「書き上げられんのかなあ」と悩みと不安の日々。それでやっと卒業できるとなったときに、新型肺炎禍。ほんと、人生、いろいろありますね。

自分たち、この4年の間に、それまでの20数年にはないような、2つも大きな事変を経験しましたね。人生に対する考え方や意識に何か、変化はありましたか。必要に迫られ、あれこれ考動しましたよね。悩みや不安のなかでも、「何とかする・何とかできる」自分を意識したことだと思います。これから残りの100年近くの人生、またいろいろ事件や事変が自分の身の回りに起こるはず。その時は、熊本地震や今回の新型肺炎の蔓延の時の自分を思い出してください。やれることをやるしかない。そう思って、これからの人生、ぜひ楽しんでください。

最後にお願ひがあります。10年先でも20年先でも、卒業の節目年に、自分たちで「卒業式」を企画してみませんか。「やりたい」と思ってくれる仲間を増やし、「やれなかった悔しさ」をはらしませんか。繋がりには形にしないとすぐに消えてしまいます。でも、目標があれば、繋がりも強く保てるはず。熊大文・法学部出身者の同窓会が「武夫原会」です。東京や大阪、名古屋の都市圏に加え、九州のそれぞれの県に会があります。皆さん、ぜひ入会して、せっかくできた大学時代のつながりを大切にしませんか。誰かがやってくれる同窓会じゃなく、自分たちで創り、回す同窓会にしませんか。先輩たちも歓迎してくれるはず。ぜひ仲間のつながりを太く長くしていただくと有り難いです。

令和2年3月24日
文学部長 水元豊文